

令和4年度第4回 第三次多摩市子どもの読書活動推進市民ボランティア連絡会 要点録

日時 令和5年1月19日（木）午後1時30分～4時

場所 多摩市立図書館 本館 講座室

出席 えほんの会、おはなしチャチャチャ、コアラ文庫、多摩おはなしの会、
多摩市文庫連絡協議会、布の絵本サークル ピエロ、もりの文庫

欠席 つくしんぼ文庫、ひなたぼっこ

開会

(事務局)

(資料の確認)

- 1 令和4年度第3回 第三次多摩市子どもの読書活動推進市民ボランティア連絡会
要点録（案）の確認

(会長)

- ・特に意見がないため、確定とする。

- 2 報告事項

(1) 第三次多摩市子どもの読書活動推進計画 各連絡会委員名簿

(事務局)

(資料1に沿って説明)

(会長)

- ・特に意見がないため、確定とする。

(2) 第14回子ども読書まつり《ほんともフェスタ》開催内容について

(事務局)

(資料2に沿って説明)

(コアラ文庫)

- ・ほんともフェスタのチラシは市内の小学生、中学生全員に配布されるのか。

(事務局)

- ・多摩市立小学校、中学校に在籍する児童、生徒全員に配布する。スタンプラリー台紙は小学生のみに配布する。

(多摩おはなしの会)

- ・今まで「特別おはなし会」としていたものが「スペシャルおはなし会」と名前が変更されているが理由はあるのか。

(事務局)

- ・子どもたちによりなじみやすいものを選択し、今回「特別おはなし会」から「スペシャルおはなし会」へ変更させていただいた。

(多摩市文庫連絡協議会)

- ・ぱっと見の印象だが、A4サイズのチラシはイラストが大きく、情報量も少なく小学生向けに見える。中学生に興味を持ってもらえるように、裏面にも情報を掲載するなどもう一工夫あってもよかったのではないかと。

(もりの文庫)

- ・チラシはいつごろ配布されるのか。
- ・毎年特別おはなし会を行っているが、定例のおはなし会について聞かれることが多い。定例のおはなし会について、チラシに一工夫してほしい。
- ・前回の連絡会で、スタンプラリーとおはなし会を絡めるといった意見があったように思う。どう反映されたのか。

(事務局)

- ・チラシは2月中旬までに配布する予定である。
- ・定例のおはなし会については、チラシ紙面の都合上掲載することができなかった。「図書館ホームページをご覧ください」という案内の一文を掲載している。
- ・スタンプラリー台紙に定例おはなし会の一覧表を掲載した。

(3) 令和5年度にむけての市民ボランティア連絡会委員の募集の周知について

(事務局)

(資料3に沿って説明)

(もりの文庫)

- ・このままではメンバーが増えない。若い世代や新しい方が参加できるように、工夫が必要である。案内を行うだけでなく、個人的におはなし会を行っている団体や子どもの読書に対して活動を行っている方たちに、積極的な声掛けを行っていくべきである。

(コアラ文庫)

- ・既存のメンバーでも参加がむずかしい状況がある。参加できそうな日時を確認し、希望を伺うなど参加しやすい環境を整えたほうが良いのではないか。

(会長)

- ・連絡会委員の各々が積極的な声かけと、子どもの読書に関心のありそうな方へのアプローチを行い、この連絡会をさらに有意義な場にしていきたい。

3 意見交換

(1) 第三次多摩市子どもの読書活動推進計画アクションプラン（令和4年度版）

【図書館・関係課分】 【多摩市立小・中学校分】 について

(事務局)

(資料4に沿って説明)

配付資料は次のとおりである。

4-1 【図書館・関係課分】、【多摩市立小・中学校分】のまとめ

4-2 遅れがあるもの

4-3 新型コロナウイルスの影響で、中断、中止の事項

4-4 【多摩市立小・中学校分】令和3年度のまとめ

4-2については令和3年度末時点で遅れがあるものであり、現在(令和4年度)は対応を進めている。

4-3について、新型コロナウイルスでは停滞が大きかったが、ICT等の活用が進んだという側面もあった。

評価指標(数値目標)について、幼稚園への団体貸出率が低いという課題がある。現在、幼稚園、保育園へのセット貸出を検討中である。これが進むと貸出率が増えることが期待できる。

4-2のおはなし会ボランティア後継者の育成の検討について、各団体の状況やご意見をいただきたい。図書館の現状は、

①養成講座を行うことは財政的な面から難しい。

②団体ボランティアとしてご協力していただいているが、団体とあると活動時間等の制約があるので、今後は個人のボランティアの活動も考

えていく必要があるかと思う。ここで各団体での現状も伺いたい。

- ・ボランティア養成講座について
もりの文庫の発言削除

(多摩おはなしの会)

- ・ボランティア養成講座の再開が難しいため、個人で活動するボランティアの道があってもいいというのはおかしいと思う。それ以前に、まず図書館がおはなし会をどのようなものにしていきたいのか、どのように位置付けたいのかを考えるべきである。図書館は子どもと本を結びつけるために行っているおはなし会に関わっていく姿勢があるのか。ボランティアと今後どのような協力関係を築いていきたいのかを示してほしい。それらが示されないままこの問題を提起されるのはとても残念である。

(もりの文庫)

- ・ボランティア養成講座がないまま図書館でボランティア活動を行うということは、基礎的な知識がないまま、ただ「子どもに読み聞かせすることが好きだから」ということだけで行ってしまう危険があるように思う。

(おはなしチャチャチャ)

- ・昔はボランティアのグループに一人職員がついていた。おはなし会のプログラム作成や、情報交換などを一緒に行っていた。最近は職員とほぼ接触はなく、図書館の職員はおはなし会をどのように思っているのか疑問に思う。出張おはなし会で久しぶりに職員と一緒にプログラムを作った。

(コアラ文庫)

- ・児童担当には私たちボランティアが行っていることを見てほしいと思う。おはなし会についての意見や別な方法、改善点などを挙げてほしい。学ぶ機会がなければ、知識も経験も広がっていかないのではないかな。
- ・学校で読み聞かせを行っていたなどの知識のある経験者を拾い上げる窓口も必要であるため、個人ボランティア自体の活動は否定しない。ただ図書館と学校の違いを線引きした上で活動を行うことが大切ではないか。横の連携も大事にしてほしい。

(もりの文庫)

- ・気楽にやることと好き勝手にやることは違う。家庭での読み聞かせと図書

館で行うおはなし会は何が違うのかを考えなければならない。個人ボランティアで活動すること自体は反対しないが、図書館の受け入れ態勢をつくるほうが先であると思う。

(多摩おはなしの会)

- ・おはなし会を市民活動の場とするのではなく、図書館職員が自分たちでおはなし会を担っていくという立場に立ってほしい。
- ・子どもたちが本を吸収する様子やおはなしを聞いている反応から、児童サービスで何をすべきかを学べるということを知ってほしい。市民やボランティアに任せるのではなく、図書館職員が児童サービスについてかじ取りをして欲しい。どのようなおはなし会を行えば、子どもと本をつなぐことができるのかを考えてほしい。「多摩市の図書館はこんなおはなし会をしたい」という考えを持ったうえで、その考えに賛同するボランティアと一緒に児童サービスを行っていくべきではないか。
- ・関戸図書館の職員にもおはなし会を見てほしいと伝えているが、来てはくれないし見てくれることもない。忙しい事は理解しているが、忙しいことがおはなし会を見に来ない理由にはならないし、そもそも職員の仕事であるべきものをできないというのはおかしいのではないかと思う。

(文庫連絡協議会)

- ・おはなし会はただのお楽しみではなく児童サービスの一つである。本来は担当職員が関わるべきであると思うし、どのような児童サービスを行いたいかを考えたいうえで、おはなし会を位置付ける必要があるのではないか。子どもの反応や感想に直接職員が受け答えしなければ、児童サービスが不十分になってしまうと思う。おはなし会をボランティアに任せ、職員はそのおはなし会を見ていないようでは、ただ時間を任せているだけになってしまう。忙しいかもしれないが児童サービスにはその時間が必要だということを書いていかなければならないと思う。

(コアラ文庫)

- ・今の多摩市の図書館では、子どもが職員に「これよんで」と本を持ってくる場面を見たことがない。以前浦安市の図書館に見学に行った際に、子どもが自分たち大人に対して「これよんで」と本を持ってきていた。浦安市の図書館に通う子どもたちにとって、大人に読んでもらうことが当たり前の日常であると感じた。今の多摩市にはそのような雰囲気はない。

(えほんの会)

- ・おはなし会は何のためのおはなし会なのかという考えをしっかりと持っていなければいけない。おはなし会を児童サービスから切り取ってしまうと、そのおはなし会はショーのようになってしまう。児童サービスの中のおはなし会という位置づけを守らなければとても危険なように思う。昔は時間や人員に余裕があったのか、フロアワークで子どもとコミュニケーションを今よりもとっていたように思う。

(コアラ文庫)

- ・時間を決めて、人を集めておはなし会を行うことはもちろんおはなし会だが、一人の子どもが、今「これよんで」と本を差し出してきて、その要求にこたえることもおはなし会の一つで立派な児童サービスである。その一冊が読書や図書館の利用につながり、広がっていくこともあると思う。それを行っていくのが子ども読書推進担当の仕事ではないのか。

(もりの文庫)

- ・自分が児童書の棚で悩んでいた時、職員に相談した。その場では解決しなかったことを、後々電話でこたえてくれることがあった。時間や人員に余裕があればこたえてくれる職員もいる。

(事務局)

- ・今年度の取り組みとして出張おはなし会を試行している。参加している親子からはいい感触を得ており、いろんな施設からは新たなおはなし会やイベントの希望がきている。中央図書館への期待にも応えていきたいので、後継者となる新規のボランティアをどのように発掘したらよいかということも考えている。

(文庫連絡協議会)

- ・個人、団体の活動にかかわらず、多摩市として考えるおはなし会にかかわる人への、最低条件を設けるべきではないか。1、2回の簡単な講習ではなく、しっかりとしたプログラムを組んだものを用意すべきだと考える。子どもを実験台にしてはいけない。

(会長)

- ・個人ボランティアが活動することに対しては反対ではない。ただボランティア活動を始めるにあたっての基準をしっかりと定めてほしい。

- ・出張おはなし会について、アンケートにあった「児童館はなにをしてくれますか？」という質問は反対ではないかと思う。「図書館が併設されていない児童館に図書館は何をしてあげられるのか」ということを考えなければならぬのではないか。

(事務局)

- ・出張おはなし会を行いながら、児童館と図書館が連携を深めていけたら良いと考えている。お互いがお互いのサービスを理解し、子育て推進や読書推進という意味でも相互に協力していけるようにしたいと考えている。現在はまだ試行の段階なので長い目で見てほしい。

(多摩おはなしの会)

- ・この場に出た意見や、児童館からの意見を次年度以降の参考にしてほしい。

(2) 今後の秋色おはなし会と旧富澤家おはなし会について

(事務局)

- ・秋色おはなし会と旧富澤家のふたつのおはなし会は日程や内容が被りやすい。秋色おはなし会は視聴覚室を会場としてきたが、換気ができない環境である。今後は旧富澤家のおはなし会に寄せていくということを考えている。

(もりの文庫)

- ・前回の連絡会では、ふたつのおはなし会は趣旨が違うため、ふたつのおはなし会をひとつにまとめるのは乱暴ではないかという意見が出ていた。その意見を踏まえても、図書館の意見は変わらないのか。ふたつのおはなし会は成り立ちが違うため、時期が同じというだけでふたつのおはなし会をまとめるのではなく、それぞれについて考えたほうが納得いくのではないか。秋色おはなし会は視聴覚室という換気ができない環境であるため再開できない、ほかに場所もないため致し方ない、旧富澤家のおはなし会は成り立ちが違うので、別々に考えるのであればいざ知らず、という話だったように思う。その意見を全く考慮せず、前回の時と同じ説明では、何のために今ここで検討しようとしているのか、全くわからない。

(コアラ文庫)

- ・秋色おはなし会は永山フェスティバルの一環で、永山図書館が中心に協力を

した形で行ってきたように思う。同じ施設の永山図書館が間に入って事務を行うのは当然のことである。昨年は永山フェスティバルでおはなし会は開催しなかったが、今年行うことは可能なのか。ボランティアからの希望があれば、開催したほうが良いように思う。旧富澤家のおはなし会（おだんごづくり）は教育振興課との連携事業である。昨年おだんごづくりは行わなかった。

（事務局）

- ・おだんごづくりは現在の状況から再開は難しいものと思われる。教育振興課からは図書館おはなしの広場とタイアップして催し物は再開したいという意向を示している。
- ・秋色おはなし会は永山図書館の児童担当ではなく子ども読書支援係が関わっていた。
- ・来年度からは7月に特別おはなし会期間を設ける予定としている。秋色おはなし会、旧富澤家のおはなし会を続けることが一番良いことだとは思いますが、イベントが詰まっていて忙しく、秋にふたつのおはなし会を開催することは難しいのではないか。今後のことも考慮し、ふたつのおはなし会を統合し、さらに発展的にしていくことを考えることも必要なのではないか。

（もりの文庫）

- ・時期が一緒だから統合する、という事ではなく「秋色おはなし会」「旧富澤家のおはなし会」それぞれで考えてもらいたい。

（コアラ文庫）

- ・秋色おはなし会は視聴覚室以外の場所が用意できず再開が難しいため次年度は「お休み」、旧富澤家のおはなし会は共同事業として継続していったらどうか。ふたつのおはなし会は開催場所が違うため、集まる子どもたちにも違いがあると思う。

（会長）

- ・中央図書館開館後に旧富澤家の使い方も変わってくるだろうと思う。次年度の旧富澤家のおはなし会は「お休み」とするが、今後教育振興課と改めて検討して欲しい。

（3）今後のおはなし会における感染症対策について

（事務局）

（資料6に沿って説明）

(多摩おはなしの会)

- ・ 昨年の荒天時、関戸図書館でおはなし会を行う予定をしていたが、当日に職員から「おはなし会を行いますか」と連絡があった。「おはなし会を開催する、しないは図書館が判断すべきである」と伝えたが、図書館として緊急時にどのような対応をするか決まっていないのか。どの時点で判断するのか、子どもの安全を考えたマニュアルを作成すべきである。

(会長)

- ・ 今後荒天時のおはなし会開催については、図書館で判断していただきたい。

(4) 中央図書館開館イベントについて

(事務局)

(資料7に沿って説明)

(コアラ文庫)

- ・ 中央図書館開館記念イベントアイデアとは別に特別おはなし会を開催するのか。

(事務局)

- ・ 別に開催する予定である。次回の開催は来年度の5月になるため、この会議で方向性を決めたい。

(もりの文庫)

- ・ 中央図書館の定例のおはなし会は今後どのように行っていく予定なのか。
- ・ 空いている時間に、普段拠点館や地域館でおはなし会を行っている団体がおはなし会を行うことは可能か。

(事務局)

- ・ 中央図書館で定例おはなし会を行う団体に入りたいという事か。

(コアラ文庫)

- ・ もちろん今まで行ってきた拠点館や地域館でもおはなし会は行いつつ、中央図書館でもおはなし会を行えたらという考えである。

(事務局)

- ・ 今回の特別おはなし会はほんともフェスタの特別おはなし会を兼ねて検討

している。

(コアラ文庫)

- ・文庫連として今回開館イベントにアイデアを提出した。私たちとしてはそちらのおはなし会に重点を置いていたため、今回の夏に行う特別おはなし会のことをあまり考えていなかった。日付さえずれていれば、特別おはなし会にも参加したい。

(事務局)

- ・中央図書館開館イベントの広報は5月中が締切だと思われる。早めに意向調査を行えるよう時期を検討する。

(5) 令和5年度市民ボランティア連絡会の開催内容について(案)

(事務局)

(資料8に沿って説明)

(多摩おはなしの会)

- ・来年度の連絡会開催回数が3回では少ないのではないかと。

(おはなしチャチャチャ)

- ・第三次計画の期間延長はどのくらいの期間なのか。

(事務局)

- ・1年間の延長である。要綱改正などはまだ行っておらず、進捗状況によって具体的な内容を検討する。

(多摩おはなしの会)

- ・第三次計画や総括についてはじっくりと連絡会の中で検討したい。

(もりの文庫)

- ・資料の事前配布がないと意見交換は難しいのではないかと。
開催通知と共に資料に目を通すことはできないかと。

(多摩おはなしの会)

- ・第三次計画の総括が1回の議論で終わるのか。連絡会の回数を1回は増やす努力をしてもらいたい。

(事務局)

- ・第三次計画の総括としているが、計画はまだ進行中である。総括に向けて方向性を検討させてもらいたい。

(多摩市文庫連絡協議会)

- ・今までの読書活動推進計画改訂などの時にも、かなりの時間をかけている。次年度以降だとしても、話し合いの時間は必要になってくると思う。

(会長)

- ・進行状況において、会議の回数を増やすことも要請したい。ぜひ検討していただきたい。

次回の日程

5月25日(木) 9時30分～12時 (開催場所未定)

(多摩市文庫連絡協議会)

- ・「文庫連だより」を配布

・閉会

(午後4時30分 終了)